

鳥取県福祉保健部指定管理施設運営評価委員会評価報告書

鳥取県福祉保健部指定管理施設運営評価委員会（以下、「評価委員会」という。）として、次のとおり指定管理者による鳥取県立鳥取砂丘こどもの国の管理運営状況を評価した。

1 対象施設

鳥取県立鳥取砂丘こどもの国

2 指定管理者

一般財団法人鳥取県観光事業団（鳥取市相生町4丁目411）

3 指定管理期間

平成26年4月1日から平成31年3月31日まで（5年間）

4 評価委員会

(1) 開催日 平成29年8月23日（水）

(2) 開催場所 鳥取県立鳥取砂丘こどもの国 管理棟会議室及び園内

(3) 評価委員

氏名	所属及び役職名
小嶋 美恵子（委員長）	社会福祉法人浜坂会 園長
木本 美喜（副委員長）	鳥取県福祉保健部子育て王国推進局 局長
吉田 高文	公立大学法人公立鳥取環境大学 教授
小谷 誠	小谷昇事務所 税理士
石塚 康裕	鳥取・因幡観光ネットワーク協議会 事務局長

(4) 評価方法

平成26年度から平成28年度分の指定管理者から提出された事業報告及び各年度の県による評価結果、施設内視察等に基づき、各委員が以下の審査項目ごとに評価を行った。

評価は、「2、1、0、△1、△2」の5段階で行い、5人の委員の平均で決定した。

審査項目	主な審査内容
施設整備の維持管理・緊急時の対応	・施設整備の保守管理・修繕 ・施設の保安警備、清掃等 ・事故の防止措置、緊急時の対応
施設の利用の許可、利用料の徴収等	・利用の許可 ・適正管理に必要な利用者への措置命令 ・利用料金の徴収、減免
その他管理施設の管理に必要な業務	・利用受付・案内 ・附属設備・備品の貸出 ・利用指導・操作
利用者サービス	・開館時間、休館日、利用料金等 ・利用者へのサービス提供・向上策 ・施設の利用促進 ・個人情報保護、情報公開 ・利用者意見の把握・対応
収入支出の状況	・経営状況
職員の配置	・管理運営の組織・職員の職種等 ・日常の職員配置 ・障がい者雇用等

会計事務の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・不適正事案や事故等の有無 ・業務報告書（月次）における内部検査結果 ・必要な規定類の整備
関係法令の遵守状況（労働関係法令、鳥取県産業振興条例等）	<ul style="list-style-type: none"> ・関係法令に係る行政指導の有無等 ・県内企業への発注等
県の施策への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者就労施設への発注

《評価指標》

- 2 : 協定書の内容について高レベルで実施されており、また、計画を上回る実績があり、特に優れた管理運営がなされている。
- 1 : 協定書の内容を上回るレベルで実施されており、優れた管理運営がなされている。
- 0 : おおむね協定書の内容どおり実施されており、適切な管理が行われている。
- △1 : 一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み又は改善される見込みである。
- △2 : 協定書の内容に対し、不適切な事項が認められ、大いに改善を要する。

(5) 評価結果

ア 評価点数

指定管理者によるこどもの国の管理運営状況の評価は「0」と決定した。

審査項目	評価（5人の委員の平均）
施設整備の維持管理・緊急時の対応	0. 2
施設の利用の許可、利用料の徴収等	0. 2
その他管理施設の管理に必要な業務	0. 6
利用者サービス	0. 6
収入支出の状況	0. 2
職員の配置	0. 2
会計事務の状況	0. 2
関係法令の遵守状況（労働関係法令、鳥取県産業振興条例等）	0. 2
県の施策への協力	0. 2

(注) 総括の評価は0. 2888となり、委員協議の上、5段階のうち「0」と決定。

イ 評価委員からの主な意見

【施設整備の維持管理・緊急時の対応に関する意見】

- 空中回廊と大型木製遊具が人気遊具なので、事故がないように維持管理してほしい。
- 樹林地の整備は子どもたちが自然にふれあうために良いことなので、今後も進めてほしい。
- 未利用施設（バードケージ）の今後の利用方法を検討すべき。
- 0歳から12歳まで楽しめるような遊具も工夫してほしい。
- 施設の老朽化が一部見られたが、計画的な更新・修繕がなされている。

【施設の利用の許可、利用料の徴収等に関する意見】

- キャンプ場の設備は充実している。4月から利用できてよい。
- 他団体によるイベント実施の可否について、判断基準を明文化すべき。

【利用者サービスに関する意見】

- ぼうけん広場は初めて見たが、設計が工夫されていると感じた。
- 入場者数も概ね増加しており、努力されていると感じた。
- 利用者の声や問題点をふまえ、スピード感を持って対応している点が評価できる。
- 子ども目線で遊具やイベント企画など工夫されていると感じた。

- H28の中部地震の風評被害があったにも関わらず、利用者の落ち込みが少ない点は評価できる。
- 非営利という点に配慮しつつ、地域の企業とのコラボを推進してはどうか。例えば、木工工房の木材の一部を地元の協力で調達するなど。

【収入支出の状況に関する意見】

- 余剰金が発生する場合は、可能な限りサービス向上のために使用してすべき。特にH28年度は利用者が減少する中で、維持管理費の経費を抑え、予算額を越える本部負担金を支出している。

【その他】

- 自然に触れることができる体験やイベントが工夫されているので、保育園や小学校学習で取り入れることができるよう、保育園や小学校の職員向けの冊子があればよい。
- より県民への周知をやっていくべき。